

司会者	附属坂出小	教諭
提案者	綾・綾上小	教諭
	綾・宇多津小	教諭
	綾・陶小	教諭
指導者	附属坂出小	教諭

1 提案の概要

【綾上小】～物語を読み取り、あらすじを書く力をつける～

(1) 学習指導要領の改訂を受けて

新学習指導要領では、自分で読み進める力・交流を重視していると考えられる。読み取ったことをあらすじの形で短くまとめて表現することで、物語のあらすじやおもしろさをとらえる力が育っていくのではない。

本単元のあらすじ・・・出来事の流れの中に、一人ひとりが選んだ大切にしたい言葉を入れて書いた筋書き。一人ひとりの読みが表れたもの。

(2) 知識・技能の習得、活用のために

相手意識・目的意識をもたせる	あらすじ絵本づくりで2年生と交流
物語を読む	場面分け・各場面読み(一人読み・交流)
活用に向けての学習	場面ごとにあらすじを書く活動の繰り返し(活用1)
(習得と活用の繰り返し)	物語をおおまかにとらえたあらすじを書く活動(活用2)
	常時活動との関連(活用3)

【宇多津小】～誰もが抵抗感なくあらすじが書けるようになるための手だて～

(1) 綾上小学校の実践を受けて

初めにあらすじを書き、詳しく内容を読み取った後、手直しする。

(2) あらすじを書くための手だて

表現活動(劇・紙芝居)を通して話の内容を読み取る。

あらすじの観点を子どもたちで見つける。

あらすじを書いた後、自己評価・他者評価。

短い文
できごとのじゅん番に
「いつ」「だれが」「どう
した」
大切な所(言葉)
分かりやすい言葉
分かりやすい文しよう
もつとくわしく

【陶小】～あらすじの書き方を学び、読書紹介に生かす～

(1) あらすじを書く必要感をもつ

図書室や教室に掲示

(2) あらすじについて考える

子どもが見つかるあらすじのポイント

- ・ 文は短く分かりやすく
- ・ 1つの場面だけ詳しく書かない
- ・ いつ・どこで・だれが・どうした
- ・ 気持ちの分かる大事な言葉

(3) 教材文を読み、あらすじの書き方を学ぶ

(4) 物語を読んで、紹介文を書く

2 成果

目的意識がはっきりしているため、意欲的に取り組める児童が多かった。

言葉に着目して登場人物の気持ちをとらえようとする児童が育ってきた。

話の展開の上で、どの出来事が大切か軽重を考えながら、あらすじを書くことができるようになってきた。

物語のあらすじを正確に読み取ったり、要点を落とさずに、物語のあらすじをまとめて書いたりすることができるようになり、県版テストにも成果が表れてきた。

3 課題

授業の初めにあらすじを書いておき、友だちと交流した際に、気付いたことや大切にしたい言葉を書き加えるようにした方がよい。(綾上小)

「あらすじ」というものをどうとらえるかがまだはっきりしていない。(しかけをどの程度入れて面白さをふくらませるか等)(宇多津小)

読解の苦手な児童にとっては、前場面の読み取りが終わってからあらすじを書くより、各場面の読解の時間にあらすじを書いておく方が負担は少ない。場面ごとに区切る方が、丁寧に読もうとする。(陶小)

必要感を感じなければ、習得はできない。そのためには、相手意識を持たせることは大切である。習得 活用 習得 活用を繰り返すことが大切である。

主体的な読みを育てる

——— 物語を読み取り，あらすじを書く力をつける ———

「物語のあらすじを考えながら読もう」 ゆうすげ村の小さな旅館 (3年)

主張点

1 学習指導要領の改訂を受けて

新学習指導要領の第3学年の内容では，読むこと的能力を育てるため，次のような事項を指導するとある。

- (1) ウ 場面の変り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景などについて，叙述を基に想像して読むこと。
- エ 目的や必要に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読み，文章などを引用したり要約したりすること。
- オ 文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

現行の指導要領に比べ，自分で読み進める力・交流を重視していると考えられる。そこで，本単元では，物語を一人読みする基本的な学習の仕方を学び，叙述から想像したことを友達と話し合う中で，一人一人が読みを確かにし，言葉に目を向けて物語を読み進める力を育てていきたいと考える。

また，読み取ったことをもう一度あらすじの形で短くまとめて表現することにより，物語のあらすじやおもしろさをとらえる力が育っていくと考える。

2 知識・技能の習得，活用のために

(1) 相手意識・目的意識をもたせる

- ・ あらすじ絵本作り
- ・ 2年生との交流

(2) 物語を読み取りあらすじを書く

つけたい力

時，場所，登場人物，出来事，気持ちの分かる言葉など文章の中の大切な言葉を見つける力

叙述に基づいて登場人物の気持ちを想像する力，
あらすじを書くために必要な言葉を選び，短くまとめる力

(3) 活用に向けての単元展開の工夫

- ・ 場面ごとにあらすじを書く活動を繰り返す(活用1)
- ・ 物語を大まかにとらえたあらすじを書く活動(活用2)
- ・ 常時活動との関連(活用3)

あらすじ絵本を紹介したいな。

物語（ゆうすげ村の小さな旅館）

この言葉を入れたいな。

読む活動

時、場所、登場人物、出来事をつかむ。

大切な言葉から登場人物の気持ちを考える。

だんだんあらすじが書けるようになったよ。

さんのあらすじはよく分かるな。

あらすじの絵本ができてうれしいな。

習得

五・六・七場面

自分であらすじを書き、友達の書いたもの比べる。

繰り返される言葉を省く。
前の場面と比べて登場人物が変わったところを入れる。

習得

三・四場面

みんなであらすじを書く。

出来事を入れる。
気持ちの分かる大切な言葉を入れる。

習得

一・二場面

あらすじについて考える。

いつどこで・だれが・どうした。
一文か二文で短く書く。

書いて伝える活動

活用1

活用1

単元の目標

場面の移り変わり、人物の行動や心情に注意して読み、物語のあらすじを正確に読み取ることができる。

大切な点を落とさずに、わかりやすく物語のあらすじをまとめて書くことができる。

活用2

心に残ったお話をもっと短くしてみよう。

出来事の流れが分かるように。
主人公の変化が分かるように。
強く心に残っている言葉を入れる。
別の言葉に言い換える。
つなぎ言葉を入れる。
いらぬ言葉を省く。

一つのあらすじにまとめる。

常時活動

読書感想カードを書く。

活用3

あらすじを読むと物語がどんな話か分かるな。

「天の川のたんざく」（ゆうすげ村のゆうすげ旅館）のお話を読みあらすじを書く。

活用3

2年生が喜んでくれた。

1年生にあらすじ絵本を紹介する。

3・4場面以降は、一人読みを行い、ワークシートに見つけた言葉とそこから考えた登場人物の気持ちを整理させた。

ワークシートを用いた一人読みの仕方

音読する。

気持ちや様子の変化の分かる大切な言葉を見つけ、線を引く。

言葉を書き抜く。

言葉を基に想像したことや考えたことを書く。

二人組の交流

一人読みをもとに友達と交流する中で、一人読みの内容がふくらんでいくようにした。登場人物の気持ちの分かる言葉について交流するときは、友達の話を受けて、話を続けていくよう、まずは、同じことをもう一度復唱したり、自分と比べて話したりするよう指導を行っている。質問できる児童を育てたい。

A:この場面の気持ちの分かる言葉は～です。この言葉から……と考えました。つぼみさんは、……と思ったと思います。



B:　　さんは……と考えたのですね。どうして、そう考えたのですか？もう一度詳しく話してください。
私も同じで……と考えました。
私は　　さんと違って……。

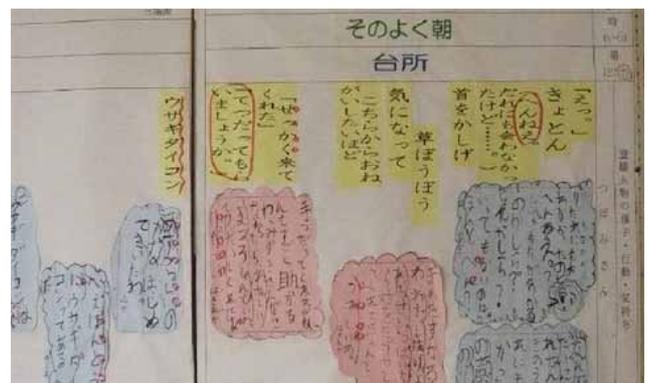
全体での交流

場面ごとに本文を拡大しておき、児童が選んだキーワードを発表する際に線を引いて、全員が学習に参加できるようにした。

言葉に着目し交流しながら、その場面で登場人物がどう変わったかを読み取らせていく。

また、前の場面を振り返ることができるよう交流の足跡を掲示して残すようにした。

場面ごとに言葉を見つける学習を積み重ねることで、文章の中から気持ちの分かる言葉が見つかる児童が増えてきた。交流後、友達の考えをノートに書き加えることもできるようになってきた。



④ どうして美月さんはにげるように帰ったの
だろう？

3 活用に向けての学習

(1) 場面ごとにあらすじを書く活動を繰り返す(活用1)

物語を読み取った後、あらすじを書く活動に取り組んだ。自分で読んだことを書き表すことで一層理解が深まると考えた。交流の中で気付いた登場人物の気持ちの変化の分かる大切な言葉を、あらすじの中に入れていくようにする。

！ あらすじの書き方を知る

「あらすじ」とは、どんな人物が出てきて、どんな出来事があったかなど、物語の中身を短くまとめた文章である。 東京書籍3年上 p 64より

1・2場面では、ももたろうのお話を例にあらすじについて説明した。授業のワークシートを振り返り、全体で一緒に「いつ・どこで・だれが何を・どうした」をまとめていった。

「何がどうした」の部分については、各自で考えて交流し、場面をぴったり表す言葉を考えていった。1・2文で短く書くこととした。

あらすじ絵本にするために、場面ごとに輪郭だけの絵に文章から考えた絵を描き加え、ノートに考えたあらすじを書いていった。

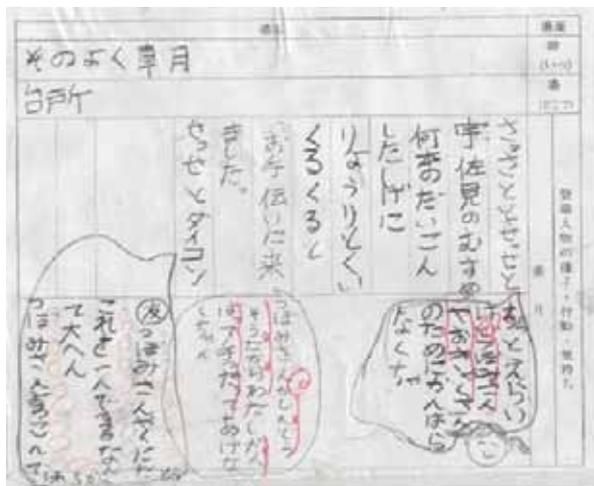
絵を描くことは、イメージを固定化してしまうが、読み取りの苦手な児童には、話を理解するために役立つようだ。

あらすじを書く活動を積み重ねる

3・4場面では、「つぼみさんがダイコンを持ってお手伝いに来た。」など場面の前半の内容だけを出来事としてとらえている児童が多く見られた。あらすじを読んでも、話が次の場面につながらないので、どうしたらいいのかを考え、次の場面につながる出来事を入れることが大切なことに気付かせた。また、友達のあらすじを聞くことにより、読み取ったときに大切にしたい人物の気持ちの分かる言葉を入れると、さらにあらすじが分かりやすくなることにも気が付いた。

いつ()	()どこで()	()
だれが()	()何を()	()
どうした()	()	()

自分のあらすじに友達の考えを付け足して書いている児童

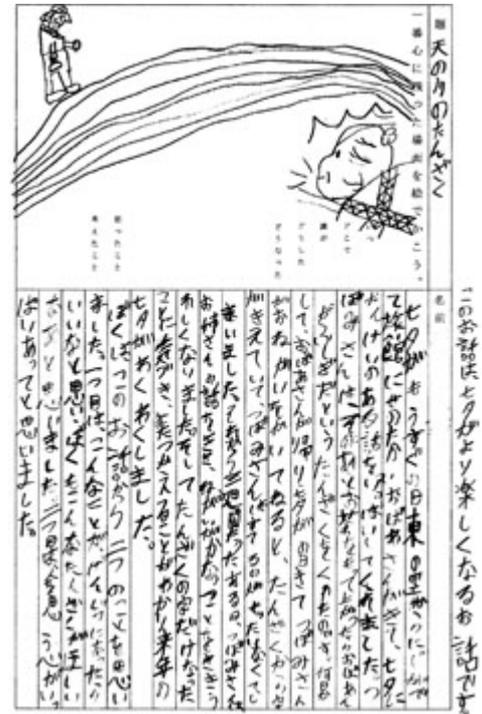


→ 一番大切にしたい言葉を入れてあらすじを書く。

三つが何のよく朝、台所に美月さん来た。美月さんはくるくるとよく作らさダイコンの料理をせよと作らさくさんにおいしいと言った。

「くるくる・せっせ」とに着目した児童

各場面のあらすじをつなぎ絵本に仕上げた。仕上がった絵本は、話し言葉で2年生に読んで紹介した。2年生に物語のおもしろさが伝わり、喜んでもらったので、児童は、あらすじの便利さを感じたり、満足感をもったりすることができた。



(4) 常時活動と関連させる(活用3)

ゆうすげ村の小さな旅館の「天の川のたんざく」を読み、あらすじをまとめる活動を行った。ワークシートを2種類準備し、あらすじを書いて本を友達に紹介する方法を学んだ。常時活動の読書とも関連させていくようにした。

繰り返し継続して、物語のあらすじをまとめ、一言感想とともに書くことにより、あらすじやおもしろさをとらえる力を育てていきたい。

成果と課題

言葉に着目して登場人物の気持ちをとらえようとする児童が育ってきた。

2年生に聞いてもらいたいという気持ちをもち、絵本の形式で各場面のあらすじを書いたので、興味をもって取り組んでいた。

あらすじにまとめることで、物語の中の言葉を自分の言葉として獲得できている児童も見られた。

習得した技能を活用するためには活用する場を児童自身が認識して、自ら意欲的に活用しようとするのが大切である。

言葉から物語のイメージを膨らませた後に、あらすじを書こうとしたが、児童の中には、言葉だけに目がいき、物語全体のおもしろさ(ファンタジーの世界)に浸ることが難しい児童もいた。

一人読みでの読みを交流し、あらすじをまとめていったが、5月末の実践ということもあり難しかった。各単元で一人読みの力、二人組みでの交流する力、全体で交流する力を段階的に育てていくことが大切である。

授業の初めにあらすじを書いておき、授業で友達と読みを交流することにより気付いたことや大切にしたい言葉、登場人物の気持ちを行間に書き加えるなど、読む活動を生かした書く活動を行うことが大切である。

- <参考文献> 粗筋を読み取る文学文の指導 瀬川榮志 明治図書 2006年
 PISA型読解力向上の学習問題と解説 小森茂 明治図書 2007年
 新学習指導要領国語科の長所・短所 明治図書 2008年

主体的な読みを育てる
誰もが抵抗感なくあらすじが書けるようになるための手だて
「物語のあらすじを考えながら読もう」－ゆうすげ村の小さな旅館－（3年）

あらすじを書くための手だて



あらすじを書くための手だて



宇多津町立宇多津小学校
丸野千鳥子・里本真由美

学習の流れ



本時の学習活動(6場面)

- 1 学習課題を考える
- 2 話の流れと大切な言葉を確認する
- 3 グループで話芝居と劇を作成する。
(話の内容をより深く理解するため)
- 4 「あらすじづくりの文みっつ(観点)」を見つけた。
↑
前場面のあらすじ(前時に、子どもの一人が書いたものを見みんなで、手直しする。
- 6 第六場面のあらすじを書く。最初書いたあらすじと比べ、よくなった所を自己評価・他者評価して、発表する。

あらすじを書くための手だて



あらすじを書くための手だて

- 1 表現活動を通して話の内容を読み取る。
- 2 あらすじの観点を子どもたちで見つける
- 3 あらすじを書いた後、自己評価・他者評価する

表現活動について



1 表現活動を通して内容を読み取る
(あらすじをとらえるための表現活動)

紙しばいの絵を
かくこと(視覚)から

げきをすること
(動作)から

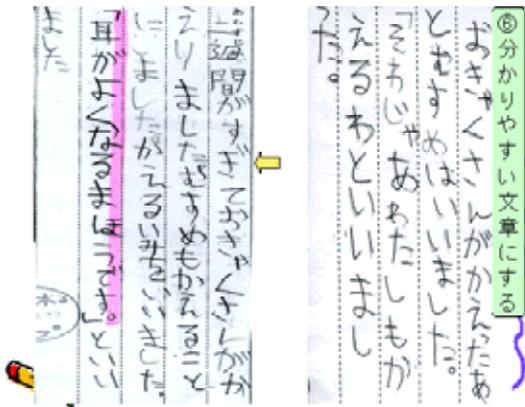
内容を読み取る

あらすじを実感してあらすじを作ることができる
生き生きしている 自然になっている

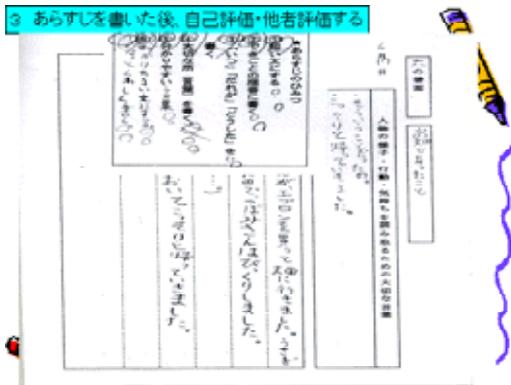
実際の表現活動



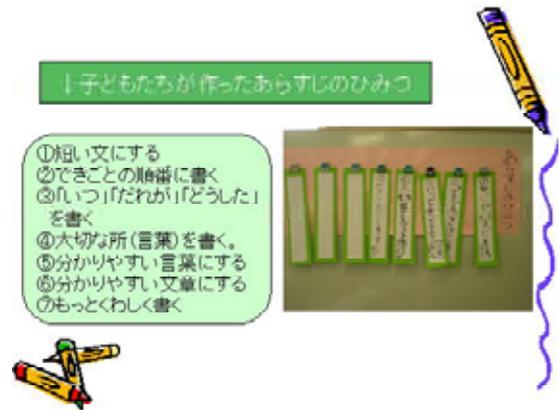
作文の苦手なB児



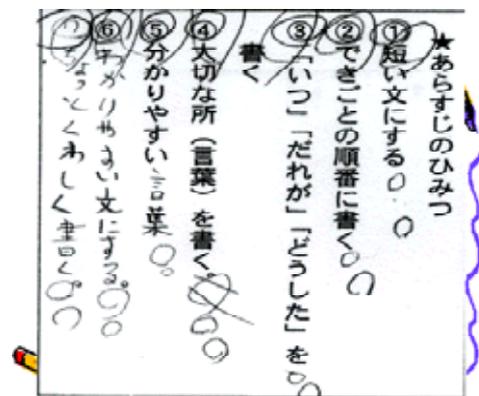
自己評価・他者評価



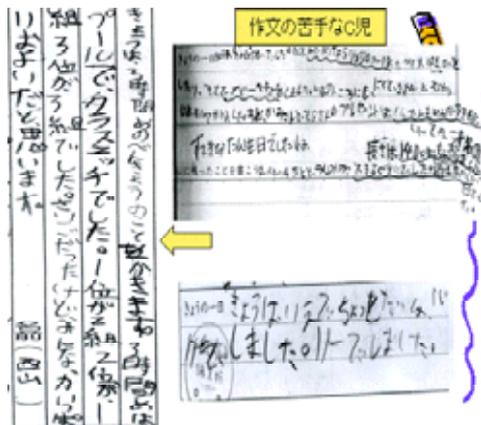
子どもたちが作ったあらすじのひみつ



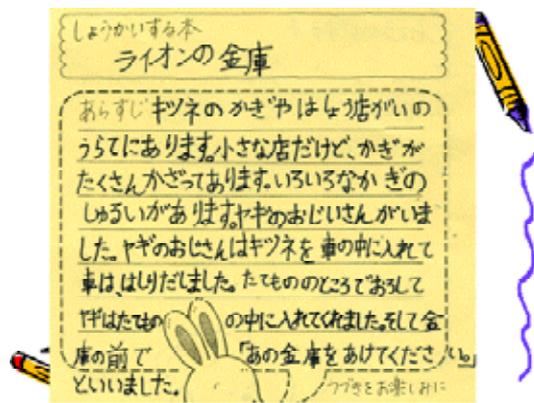
自己評価・他者評価カード



C児の変容



本のしょうかい文



これからの課題

あらすじをどうとらえるか

しかけをどの程度入れて面白さをふくらませるか
 人物の気持ちをあらすじの中にどの程度入れるか

主体的な読みを育てる

あらすじの書き方を学び、読書紹介に生かす

「物語のあらすじを考えながら読もう」 - ゆうすげ村の小さな旅館 (3年)

(1) あらすじを書く必要感をもつ

「図書室で本を借りるときに困ることはないか。」との質問に対して、次のような答えが返ってきた。

- ・どんな筋が分からない。(読んでみると、興味ある話でなかった) 24名 (調査人数27名)
- ・どこにあるのか分からず、探すのに時間がかかる。 2名
- ・読みたい本がたくさんあって選ぶのに迷う。 1名

以上の結果から、本を借りたものの、自分にとって興味深い内容ではなかった経験をもつ児童が多いことが分かった。そこで、簡単な本の紹介があれば借りるときに助かるという話し合いから、グループで本のあらすじを書き、図書室や教室などに掲示して、1・2年生に役立ててもらおうということになった。

(2) あらすじについて考える

「あらすじとはどんなものか。」「あらすじを書くときに気を付けることは何か。」を考えさせるために、2年生で勉強した「かさこじぞう」のあらすじを3パターン提示して話し合った。

<p style="text-align: center;">ア</p> <p>むかしむかし、あるところに、たいそつびんぼうないさまとばあさまがすんでいた。</p> <p>ある年の大みそか、正月が来るのに、もちこの用いもできないので、なにか売るものでもないかとさがしていたら、すげがあつたので、せつせとすげがさを五つあんで、じいさまは町へ売りに行く。</p> <p>町は大にぎわいだつたので、じいさまは声をはり上げたが、だれもふりむいてくれなかつたので、帰ることにする。</p> <p>帰りに、そのかさをじぞうさまにかがせたので、じぞうさまが正月のしなものをもってきてくれる。</p>	<p style="text-align: center;">イ</p> <p>むかしむかし、あるところに、たいそつびんぼうないさまとばあさまがすんでいた。</p> <p>大みそかに、二人ですげがさをあむ。</p> <p>じいさまは、そのかさを町へ売りにいくが売れない。</p> <p>帰り道、ふぶきの中にじぞうさまがたつていたので、じいさまはかさや手ぬぐいをかがせる。</p> <p>家に帰り、じいさまは、かさをかがせたことをばあさまに話し、二人でもちつきのまねごとをしてやすむ。</p> <p>すると、ま夜中に、じぞうさまが正月のしなものをもってきてくれ、二人は、よい正月をむかえることができる。</p>	<p style="text-align: center;">ウ</p> <p>むかしむかし、あるところに、たいそつびんぼうないさまとばあさまがすんでいた。</p> <p>正月に、もちのよいをしたいと思って、二人で大みそかにすげがさをあんで、じいさまが町へ売りに行く。</p> <p>ところが、一つも売れないので、じいさまはしかたなく帰る。</p> <p>その帰り道、ふぶきの中でじぞうさまが六人立っているのを見て、じいさまは、さぞつめたがるうつかさや手ぬぐいをかがせる。</p> <p>家に帰り、じいさまがかさをかがせたことを話すと、ばあさまはいやな顔ひとつしないで聞き、二人でもちつきのまねごとをしてやすむ。</p> <p>すると、ま夜中に、じぞうさまがかさや手ぬぐいのおれいに、正月のしなものをたくさんもってきてくれ、二人はよい正月をむかえることができる。</p>
--	--	---

これらのあらすじを読んだ子どもたちの反応は次のようであった。

- ア 話の初めのほうだけ詳しい。「ある年の・・・」の文が長くて分かりにくい。
- イ 文が短い。簡単にまとめられている。大まかに書いている。気持ちが分からない。
- ウ アやイより長いが、筋が分かりやすい。様子や気持ちがよく分かる。この話を知らない人でも分かる。

そこで、上記の話し合いをもとに、あらすじを書くときに大切なことは何かまとめていった。

- ・文を短く分かりやすく書く。
- ・一つの場面だけ詳しく書かない。
- ・いつ・どこで・だれが・どうしたを書く。
- ・様子や気持ちの分かる大事な言葉を入れる。

(3) 教材文を読み、あらすじの書き方について学ぶ

<一つの場面だけ詳しく書かないために>

第1次 時を表す言葉に気を付けて場面分けをし、登場人物を書き出した後、それぞれの場面に合った小見出しを付ける。

場面	時	登場人物
一	あさ	美月さん
二	あさ	美月さん
三	あさ	美月さん
四	あさ	美月さん
五	あさ	美月さん
六	あさ	美月さん
七	あさ	美月さん

第2次 登場人物のしたことや様子・気持ちを読み取る。

<気持ちの分かる大事な言葉を入れるために>



第3次 あらすじを書く。

場面ごとに出来事を思い出し、簡単に書き出す。 <いつ・どこで・だれがどうしたを書くために>

場面	出来事	あらすじ
7	美月 手紙が来た。	美月さんから手紙が来た。
6	山の日 山の日	山の日に行き、美月さんは花を摘み、お母さんに届けた。
5	美月 畑に帰る	畑に帰ると、お母さんがお茶を淹れてくれた。
4	二週間がすぎた	二週間がすぎた。美月さんは毎日お茶を淹れてくれた。
3	美月 ダイコンの料理	ある日、美月さんはダイコンの料理を作った。
2	美月 手紙が来た	手紙が来た。美月さんはお母さんに手紙を送った。
1	美月 手紙が来た	手紙が来た。美月さんはお母さんに手紙を送った。

一場面一文であらすじを書く。 <文を短く分かりやすく書くために>

第6場面は、これまでに起きた出来事のなぞが解け、誠実な美月に対するつぼみさんのやさしい思いが「こっそり帰った。」という表現に表れているが、そうしたわけがあらすじに書けている児童は少なかった。

- ・「エプロンを持って行った」などと書いてあり、話の展開上、大切な表現に触れていない。 . . . 5名
- ・「うさぎだと分かる」など、なぞが解けた点に中心がおかれ、気持ちは書かれていない。 . . . 8名
- ・「うさぎだと分かりこっそり帰った」という表現があらすじに書けている。 . . . 11名
- ・「こっそり帰った」の表現とわけが書けている。 . . . 3名

(3) 物語を読んで、紹介文を書く。

第1次 グループで本を読んで、場面分けをする。

第2次 分担してあらすじを書き、清書する。

場面	出来事	あらすじ
1	ある日の朝、つぼみさんが学校に遅く来た。	ある日の朝、つぼみさんが遅く来た。
2	つぼみさんが学校に遅く来たので、先生が怒った。	つぼみさんが遅く来たので、先生が怒った。
3	つぼみさんが学校に遅く来たので、先生が怒った。つぼみさんは、先生に謝った。	つぼみさんが遅く来たので、先生が怒った。つぼみさんは、先生に謝った。
4	つぼみさんが学校に遅く来たので、先生が怒った。つぼみさんは、先生に謝った。つぼみさんは、先生に謝った。	つぼみさんが遅く来たので、先生が怒った。つぼみさんは、先生に謝った。つぼみさんは、先生に謝った。
5	つぼみさんが学校に遅く来たので、先生が怒った。つぼみさんは、先生に謝った。つぼみさんは、先生に謝った。つぼみさんは、先生に謝った。	つぼみさんが遅く来たので、先生が怒った。つぼみさんは、先生に謝った。つぼみさんは、先生に謝った。つぼみさんは、先生に謝った。
6	つぼみさんが学校に遅く来たので、先生が怒った。つぼみさんは、先生に謝った。つぼみさんは、先生に謝った。つぼみさんは、先生に謝った。つぼみさんは、先生に謝った。	つぼみさんが遅く来たので、先生が怒った。つぼみさんは、先生に謝った。つぼみさんは、先生に謝った。つぼみさんは、先生に謝った。つぼみさんは、先生に謝った。

<「ねぼすけ1年生」のあらすじ>

成果と課題

あらすじの書き方を学んで、本の紹介文を書くといったためあてがはっきりしていたので、意欲的に取り組めた。

話の展開の上でどの出来事が大切か軽重を考えながら、あらすじを書くことができるようになってきている。

1・2年生に紹介するために、ストーリーの簡単な絵本を主に選んだので、文章表現だけでなく挿絵も手がかりにしながら場面（話の展開）を考えることができた。初めてあらすじを書く3年生にとっては、適切であった。

挿絵をできるだけ入れたワークシートを用意していたので、出来事についての理解はよかったが、キーワードに注目して丁寧に読むことが十分にできなかった。そのため、教材文のあらすじを書くとき、様子や気持ち（変容）の分かる言葉が入っていない児童が多く見られた。

読解の苦手な児童にとっては、全場面の読み取りの学習が終わってからあらすじを書くより、各場面の読解の時間に一場面一文であらすじを書いていくほうが負担が少ない。